

# 読書感想文 虎の巻

## 読むまえに・・・

- ・本は、「自分が読みたい」もの、「自分が面白い」ものを選ぶこと。
- ・学校から指定がなければ、絵本でも科学の本でもオッケー。
- ・課題図書じゃなくてもいいよ!

自分で選ぶことが大事だよ!

## 書くまえに・・・

- ・本を読みながら、紹介したいシーン、良いと思ったセリフなどがのっているページに「ふせん」を貼ること。
- ・4種類のメモを取ることに。

図書館にはおすすめ本リストもあるよ!

- A 書き出し：自分がその本を選んだきっかけ、最も伝えたい本の魅力など。
- B あらすじ：おおまかなストーリーの説明。
- C 主張：「ふせん」を貼ったページについて、自分の考え。

(シーンときたシーン、共感できるセリフ、すごいと思った主人公の行動など。)

D まとめ：この本を読んで、自分がどう思うようになったか、この本を

手に取るひとに何を伝えたいかなど。

- ・メモを適当な順番に並べ、全体の雰囲気をつかんでからゆつくり書くべし!

\*メモは1種類につき1枚じゃなくてもいいよ。

いくつかのメモを書いて、最後にいろんな順番に並べてみよう。

### ◆メモ配置例◆

- ↓ メモA (本を選んだきっかけ) ↓ メモB (物語全体のストーリー)
- ↓ メモC (そのシーンが素敵だと思う理由)
- ↓ メモD (自分も経験したことのあるシーンのストーリー)
- ↓ メモE (そのときの主人公の行動はこころがすこいんだよ!)
- ↓ メモF (主人公に○○と言いたい!)

## さあ、書くころ!

次のことに気をつけて、丁寧に書こう。

「ああ豊橋」を読んで 五年 豊橋 花子

文章の最初は、1マス空けます。

□ わたしは、豊橋で生まれて豊橋で育ちました。だから……。

話の内容が変わるとき、次の行に移動して、1マス空けます。

□ この本では………

□ また、………

タイトルと学年、名前は、マスの外に書きましょう。

「、」や「。」「」なども普通は1マス使って書きます。

ただし、「、」「。」「」がいちばん上のマスにきてしまう場合は、「、」「。」「」はその前の文字といっしょに、いちばん下のマスに入れましょう。

## ほかに、気をつけること

- ・本のタイトルや、本の中に出てくる言葉は「」でくくること。
- ・「です」「ます」調か、「だ」「である」調か、どちらかに統一すること。
- ・原稿用紙に書いたら、メモCの内容が、全体の半分くらいになるようにすること。
- ・インターネットや本から、他人の文章をそのままマネするのは絶対にダメです。

これは、**豊橋市図書館**で考えた方法のひとつです。

「4種類のメモを取る」以外のやり方もあるので、これでうまく書けなかったり、もっと詳しいことが知りたかったら、課題図書・おすすめ本コーナーの本を借りたり、学校の先生に聞いてみてね!

# どくしょかんそうぶんをかこう!

どんな 本<sup>ほん</sup>で かこうかな?

- ・じぶんが さいごまで たのしく よめる本。
- ・じぶんで えらんだ ほん。

としよかんには  
おすすめ本リスト  
もあるよ!

よんだあとは

つぎの 3しゅるいの メモを かいてみよう。

① じぶんが その本を えらんだ りゆうを かいた メモ。

② こんなことを おもいだしながら かいた メモ。

・とくに こころに のこったのは どこかな?

・とくに どきどきしたのは どこかな?

・ふしぎに おもった ところは あったかな?

・しゅじんこうの きもちで、「じぶんと いっしょだ!」と おもった ところは あったかな?

・ほかに、みんなに しょうかいしたい ばめんは あったかな?

③ その本をよんで じぶんが どういう きもちになったか、 じぶんが どんな ふうに かわったか、などを かいた メモ。

メモを ならべよう。

つくった メモの なかから、どれを つかうか えらびながら、メモを じゅんばんに ならべて、げんこうのように メモの ないようを かこう。

\*メモの じゅんばんは ①→②→②(→②)→③だよ。

\*メモ②を いくつ つかうかは じぶんで きめてね。つかわない メモも でてくるよ。



さあ、かこう!

つぎの ことに きをつけて ゆっくり かこう。

「すいぞくちをよんで 一ねんあいちをろう」

はじめは、1マス あけます。

□ ほくがこのほんをよもうとおもったのは、おひるにちくわをたべたからです。.....

.....

□ ほくはさいしょに、.....

..... おもいます。

□ もうひとつきになったことは、.....

.....

だいいい、がくねん、みようじ、なまえは、マスのもとにかきましよう。

「」や「」も ぶつうは 1マス つかって かきます。ただし、いちばん したの マスだけは、もじと いっしょに 「」。「」をかきま しよう。



そのほかに、きをつけること

・タイトルや、本のなかに でてくる ことばを そのまま かえないで つかう ときは 「」で くくること。

・ぶんしょうの さいごを「〇〇です」という ていねいな いいかたに するか、「〇〇だ」という いいかたに するか、ちゃんと きめてから かくこと。

・ぜんたいの はんぶん いじょうを、②の メモの ぶんしょうに すること。ひとの かんがえた ぶんしょうを そのまま まねするのは ぜったい だめ!

これは、とよはしし としよかんで かんがえた ほうほうです。これを よんでも うまく かけなかつたら、としよかんの 本を かりたり、おうちのひとや がっこうの せんせいと そうだん してみてね。